

東京都立清瀬高等学校  
第2学年出張授業講演資料

## 進路を考える

— いける大学ではなく、いきたい大学へ —

公益社団法人経済同友会

幹事 林 明夫

日時：2016年11月16日(水)

13：30～14：30

場所：東京都立清瀬高等学校

お読みになりやすいように、QandA の形で資料を作成いたしました。参考になると思われるところには下線等を引き、後で読み返して自分のものとしてお役に立ててください。

Q 1 : 本日の講演の目的は何ですか。

- A : (1) 夢の実現のため「いける大学ではなく、いきたい大学」へと「ワンランク上」を目指すにはどうしたらよいかを考えること。
- (2) 将来の職業、進路選択に向けて自分探しをどうするか等、進路実現に向け自分の力で考えること。

Q 2 : 好きなことばはありますか。

A : (1) 「練習で泣いて、試合で笑え」

\* 足利市立山辺中学校柔道部監督 椎名弘先生のことば

(2) 「ブルドッグ魂(だましい)―食いついたら離すな」

\* 足利市立山辺中学校中3クラス担任 岡田忠治先生(安中出身)のことば

(3) 「一所懸命、一つの所で命を懸(か)けるくらい熱心に取り組もう」

\* 栃木県立足利高等学校マラソン大会の合いことば

(4) 「スポーツの3つの宝とは」

① 練習は不可能を可能にする

② フェア・プレー \* ルールの中でプレーする、いやしいプレーをしない

③ よき友

\* 慶應義塾 塾長 小泉信三先生のことば

(5) 「離見の見(りけんのけん)」―舞台で踊っている自分を離れた観客席から見る―

\* 世阿弥

(6) 「教育ある人とは(一生)勉強し続けている人」

\* 経営学の大家 ドラッカー先生のことば

(7) 「一生勉強、一生青春」

\* 足利市の書家 相田みつを先生のことば

◇ 皆様の好きなことばは何ですか。下線に書いてください。

---

---

Q 3 : 林さんはどのような仕事や社会的活動をしていますか。

A : (1)開倫塾 塾長、代表取締役 社長

\*小学生・中学生・高校生を対象とし、群馬県・栃木県・茨城県に 60 校舎を展開する学習塾の経営者

(2)学校法人 有朋学園 有朋高等学院、理事長 (福島市)

(3)宇都宮大学大学院工学研究科、客員教授 (宇都宮市)

(4)マニー株式会社 (手術用縫合針製造) 顧問、社外取締役 (2004 年～2010 年)

本社 : 宇都宮市 現地法人 : ハノイ( )、ヤンゴン( )、ビエンチャン( )

(5)社会福祉法人 両崖福祉会 特別養護老人ホーム 清明苑、監事(足利市)

(6)開倫ユネスコ協会 会長 (「人間安全保障」の推進が設立の基本理念)

(7)CRT ラジオ栃木放送「林明夫の歩きながら考える」毎週土曜朝 9:15 ~ 25 担当、30 年目

Q 4 : それどはズバリお聞きします。夢の実現のため「いける大学ではなく、いきたい大学」とワンランク上を目指すには、どうしたらよいですか。

A : ワンランク上を目指すのであれば、今月から入学試験の当日まで、「受験生の自覚」をもって、「ハードな長時間自己学習」をし続けること。これ以外ありません。

Q 5 : 「受験生としての自覚」とは何ですか。

A : (1)「自分は1年後に〇〇大学を受験する受験生である」ということを、自分自身ではっきりと認識していることです。

(2)自分が何者であるかを「自覚」していることが、ものこどを成し遂げるには不可欠です。

Q 6 : 「自覚」をするにはどうしたらよいですか。

A : (1)「価値」「意味」「秩序」という3つの観点からものごとを考えることをお勧めします。

(2)「価値」とは、ものごとの「大切さ」です。ものこどの「価値」(大切さ)を、よくわかった上で、自分なりに「意味」付けをし、それならこれはこうしよう、これはやめよう等と、自分の行動にルール・決まりをつくり、「秩序」だった行動をする。「自律的に活動」すること。これが「価値」「意味」「秩序」です。

(3)なぜその大学に進学するのか、大学に進学して何を学ぶのか、大学を卒業してどのような仕事に就くのか、どのような社会的行動をするのか、どのような一生を送るのかを少しずつでも考える。その上で、これから高校卒業するまでの1年半を、どのように過ごすのかを考える。

(4)いきたい大学の「価値」(大切さ)を考えた上で、いきたい大学へ進学するための受験勉強の「意味」を考え、「意味付け」を行う。そして、その実現のために「~をしよう」、「~す

るのはやめよう」と、自分の行動のルール、「秩序」をつくる。「自律的に行動する能力」を身に着けることが大切です。

**Q7：大学とはどのようなところですか。**

A：(1)大学とは「最高学府」「知の頂点」です。ものごとの本質とは何か、真理探究の場です。

(2)大学での勉強は、「教育と研究」の二つです。

(3)「教育(教える)」といっても大学では、1 から 10 まで教科書をスミからスミまで丁寧親切に説明をするような教え方をしません。「主体的に学ぶ力」を一日も早く身に着け、一人ひとりが自分のテーマを探して「研究」することが「大学の使命」です。

(4)一般に、大学では 90 分授業 15 回の後、単位認定の試験が行われ、合格点を取れば単位を取得することができます。欠席が多いと試験を受けることができません。一定の点数以下の人は不合格となり、単位が取れず、再履修となります。一定の期間までに必要な単位が取れなければ留年や退学となります。

(5)1 回 90 分の授業については 3 時間の準備やまとめ時間が課せられます。課題が出され、事前に予習し、調べてきたことを授業中に議論する形での授業が増えています。ですから、大学で大切なのは「予習の習慣」を身に着けてから進学することです。大学に進学するまでに、つまり、高校卒業までに 1 教科でも多くの「予習」を行い、「予習の習慣」を身に着けることを、大学への受験勉強、入学前勉強として行うことをお勧めします。

(6)これは短期大学、専門学校なども全く同じです。

(7)大学では、教科書をスミからスミまで教えません。教科書や教材は「予習」のときに自分の力でよく勉強すること。自分でよく理解できること、自分の力で理解することが求められます。予習していてよくわからないことがあれば、図書館に行き、自分の力で調べる。大学の図書館は調べるためにあるのです。よくわからないところを予めはっきりさせてから、授業に臨む。そのために行うのが「予習」といえます。

(8)大学の授業では、先生の講義の内容や、クラスメイトとの議論の内容、図書館などで自分で調べたことをどんどんノートをしつけて、後で読みやすいようにまとめ上げること、つまり「ノートの活用」が大切です。必要なことは、「ノートを取る」ことができるのは、大切な能力です。

(9)ところで、仕事をするときには、普通、教科書はありません。必要なことはメモを取り続け、そのメモを整理し、よく覚えることでしか仕事は身に着きません。「仕事はメモで身に着ける」ともいえます。学校で授業中に必要なことをノートに取ることは、そのよい練習となります。



(10)4 年間の大学だけでは不十分なので、大学院(修士課程 2 年、博士課程 3 年間)に多くの人が進学します。一度大学を卒業した後も、何回も大学や大学院で学び直すのが「世界の常識」

です。70、80歳になって大学で勉強し始める人も、世界にはたくさんいます。

(11) 大学では、英語以外の外国語も学びます。必修教科となっています。大学ですので、第2外国語は、かなり早いスピードで進みます。

\* 英語で用いた文法用語や発音記号は他の外国語学習でも使いますので、高校出の英語学習、とりわけ英文法もしっかり行ってください。基本的な英語の文法用語がよくわからないと、第2外国語はお手上げの状態となります。第2外国語でも辞書を多用しますので、英語の辞書引きでその予行練習をしてください。電子辞書だけでなく、紙の辞書も自由に引けるようにしておいてください。大学の語学の試験は、辞書持ち込み可のところが多いですが、電子辞書は禁止のところが多いからです。大学入学が決まったら、高校在学中から第2外国語の学習をスタートしてください。(NHKのラジオ放送がお勧めです)

(12) 特色のある「大学」への進学も超お勧めです。例えば、職業訓練指導員を養成する「職業能力開発総合大学校(小平市)」などは大学院もあります。

**Q 8 : 高校在学中にやっておいたほうがよいことは何ですか。**

**A :** (1) 高校で学ぶ教科は高校でしか学べません。高校で学ぶ全教科は大学での教育研究の前提となりまので、全教科しっかりと学習し終え、大学に進学してください。(高校の教科書は絶対に処分しないこと、一生かけて勉強し直すこと)

(2) 「エクセル」「ワード」は必須です。

(3) 「読書(本を読む)により思慮深さ」を身に着ける。高校時代に古典を一冊でも多く読み、大学に進学してください。「書き抜き読書ノート」を。

(4) 「新聞」を毎日読み、「自分で考える力」「批判的思考能力(critical thinking、クリティカル・シンキング)」を身に着ける。新聞を読まないで世の中の動きを知ることはできません。「スクラップブック」を。

(5) 部活動(スポーツ、芸術活動)での「ものごとをやり抜く力」を身に着け、大学でも行い、また、一生通して行う。

(6) 「5S」(ごえす)…高校時代に「5S」を身に着けましょう。身近なところから、かばんの中、机の中、机の上、ダンスの中、ロッカーの中などを、自分で「5S」にチャレンジしよう。

- ①「整理」 seiri ……不要なものを捨てる
- ②「清掃」 seisou ……きれいに掃除(そうじ)する
- ③「整頓」 seiton ……ものはいつも同じところに置く
- ④「清潔」 seiketsu ……いつも①～③を保つ
- ⑤「躰」 shitsuke ……自分から進んで行う



(7)別の意味での「躰」(しつけ)も高校時代に身に着けましょう。

①「美しい立居振舞い(たちいふるまい)」

\*服装も大事、元気なあいさつ

②「敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)」

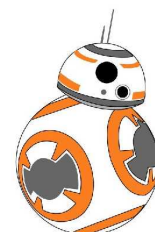
\*「です・ます調」で話せること



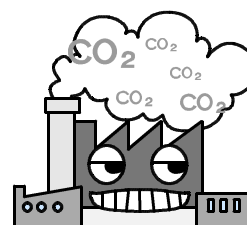
Q9 : 最後に一言どうぞ。

A : (1)「夢の実現」のためには、これからの世の中がどのようなになるかを知る取り組みが、欠かせません。

(2)映画「STAR WARS」やゲームソフトでこれからの世の中を考えることも大切ですが、「Industry 4.0 第4次産業革命」「フィンテック」「AI(人工知能)」「遺伝子工学」「最先端医療」「超少子高齢化」「人口爆発」「イノベーション」「環境破壊」「国際紛争」「移民・難民」「健康長寿社会」など現代を考える「キーワード」にも関心を持ち、新聞を毎日読み、考え続けることが大切です。



(3)新聞を読み、興味・関心があることがはっきりしてきたら、「雑誌」「文庫本」「新書本」もどんどん読みましょう。



(4)その上で自分の夢を考えること。夢の実現の中に、「みんなのお役に立つこと」、「社会のお役に立つこと」も是非入れてください。そのために「社会の課題」とは何かを発見することが大切です。そして、その課題の解決のために、自分は何がしたいのかを考えてください。解決も是非、含めて頂くことを希望します。

(5)卒業後、高校時代の友だちは「同窓生」、先生方は「恩師」となります。一生かけ少しづつでも友情を育んでください。

(6)自分や他人にあまり厳しくしないこと。自分のよさ、他人のよさを少しでも見つけ、高く評価し、どんどん伸ばすこと。

(7)「健康第一」です。心の健康・身体の健康に、十分気をつけて、素晴らしい人生を歩んでください。

御清聴を感謝いたします。

感謝

